

おうちめいじゅ

居場所いい場所みんなで創ろう！

前橋市地域包括支援センター西部

主幹 山田圭子

地域包括支援センターを知ってください。

こんな仕事をしています

1 総合相談窓口（ワンストップサービス）

- ・介護保険だけでなく、様々な制度や地域資源等との連携による横断的な支援を行います。

2 権利擁護、虐待の早期発見・防止

- ・高齢者の人権や財産を守るために必要な援助や虐待の早期発見・防止に努めます。

（※虐待の多くは家庭や施設などの密室で発生することが多いとされています）

3 介護支援専門員（ケアマネジャー）支援

- ・包括的・継続的に様々な支援が提供されるよう地域のケアマネジャーの後方支援を行います。

4 介護予防マネジメント

- ・介護が必要な状態にならないように介護予防ケアプラン作成や総合事業等の紹介を行います。

□保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の3職種常勤配置が原則です。

□2つの中学校区、人口3万人に1か所設置を原則として、市町村の「介護保険事業計画」で決めて、地域包括支援センター運営協議会を通して設置しています。

前橋市地域包括支援センターを通して概要紹介

設置 **直営** 1か所／ **委託** 11か所 **官民協働型**

経過 平成18年直営1か所で事業開始（社会福祉士/主任介護支援専門員は出向）

平成21年より委託化（直営2か所（支所含）委託7か所）

平成24年4月から直営1か所、委託10か所

平成30年4月から直営1か所 委託11か所

地域包括支援センターの設置形態

- ・市町村（保険者）**直営**
- ・運営協議会が認めた法人等へ**委託**

前橋市地域包括支援センター西部の概況

担当 **3地区**（人口 33,932人／高齢化率 平均26.38%）

地域の特徴 ①利根川の西側、2市町と隣接 ②JRの駅が二つ ③前橋警察署、銀行本店

金融機関数 ゆうちょ銀行（5）信用金庫（1）信用組合（1）地方銀行（2）第二地方銀行（2）

平成21年4月より委託開始

①設置法人／公益財団法人老年病研究所（病院・老健併設・特養・介護付有料）

②他委託事業 **前橋地域リハビリテーション広域支援センター**

認知症疾患医療センター／前橋市認知症初期集中支援チームの設置

職員配置 ①社会福祉士4名 ②保健師1名 ③主任介護支援専門員2名

地域づくりは 地域包括支援センターのメインテーマ

地域づくりを実践する方法の一つとしての居場所づくり

居場所ってなあに？

調べてみました！

1. 人などがいるところ。いどころ。

例えば「尋ね人の居場所が分かる」

2. その人が心を休めたり、活躍したりできる環境。

例えば「職場に居場所がない」

もしかしたら

「家に居場所がない」 「地域の居場所がない」

地域づくり

当院所有の旧ひまわり保育園を「ひまわりカフェ」へ転換

前橋市の居場所づくり（はつらつカフェ／市補助金）

□補助事業者

1. 高齢者支援に関する活動実績がある特定非営利活動法人、一般社団法人等
2. 介護保険サービス事業者として指定を受けている法人

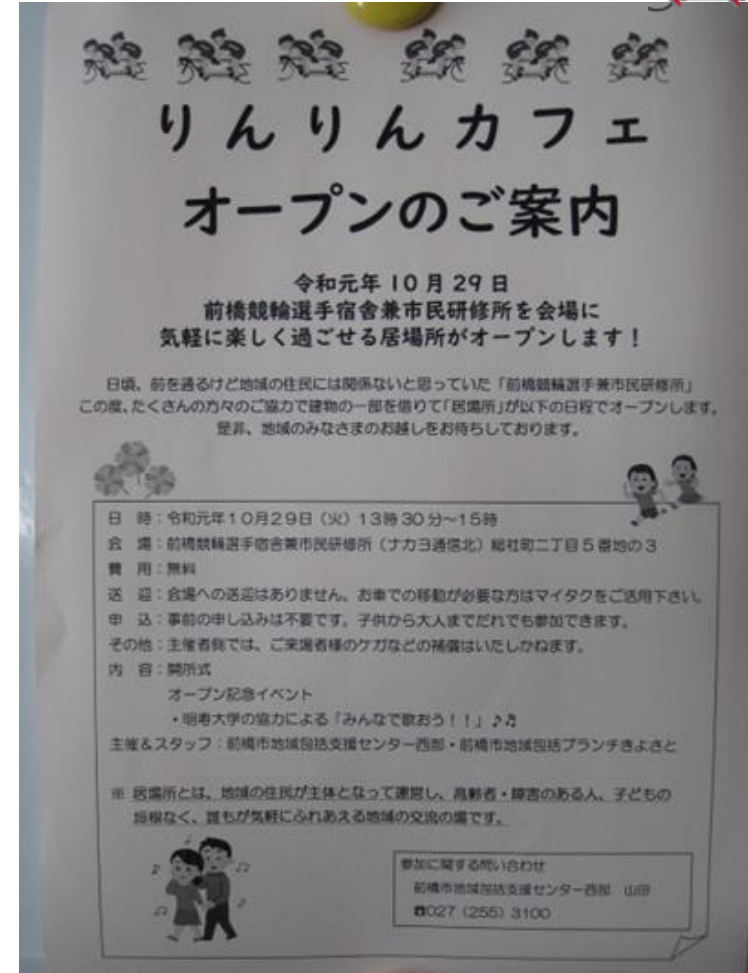


地域づくり

りんりんカフェ/公共施設の活用例



第1回参加者ほぼ100名



コラム 「地域の士間」

実際の落首、立腹までリアを併用して、立ち居で済ませてしまうことはないでしょうか？
伝統的な日本屋敷には「土間」があり実際に踏むことができます。市外には畳敷きも多いところ、コミュニケーションの場として土間が機能している地域も少なくありません。靴を脱がずに家に引き入れられる土間は、季節な装束でも履き足すのようになってつづける場所として、日本の伝統をつづける大きな役割を果たしてきくと考えます。

お茶、お酒、お菓子をふるまう「茶室」が流行する時代は、ある程度日本人が居住してきて経年でもありますが、一方で人がお茶室で暮らしていくためには支え合うことが大切であると互いに感じている方も多くのではないのでしょうか。

一方で待望している「居場所」は、時代に合わせて適度な距離の人間関係をづくり、お茶の会のきっかけとなる「地域の士間」としての役割があると考えられます。しかし、現在の環境において、自然発生的に「居場所」が生まれることを期待するのは難しいため、社会福祉協議会や地域の居場所センター、社会福祉法人など各社にまつわる団体が、居場所の立ち上げを支援し、働きかけています。

お互いさまの心をもつことのできる「居場所」が、みなさんがお住まいの地域にもあるといいと思いませんか？

5 国はが子育ての輪



保育所に「ひまわりカフェ」 交流の場 住民に開放

【前編】公益財団法人の老年病
研究所(前橋市)と市地
域包括支援センター西部
は10日、開業元健社社内に「ひま

わりカフェ」を開設した。新
な地域交流の場として住民に開
放し、活用してもらう。
同研究所が運営する保育所が
移転し、使わなくなった木造草
屋建のこの建物を再利用した。2
Fと3Fはリビングスペース、1F
はキッチンと調理場、トイレ、
洗面所もある。
記念式典が開かれ、約40人が
出席を祝った。栗原 研究所の
栗原 真光理事長(左)は、開業の
ある時に訪れてほしい」と話し
ていた。
月内は認知症カフェやスマー
トフォン教室などの開催が予定
されている。問い合わせは施設
を管理する市地域包括支援セン
ター西部(0287・8555・
3100)へ。

新たな部み 群馬大学の皆さんとの交流 ひまわりカフェ (元健社町)

元保育所の建物を活用し、通りからもふらりと立ち寄りやすい場所にあるためか、近隣の方以外にも参加されています。

はつらカフェとして第3火曜日に実施している「認知症カフェ」のほかに、駅前中心の「らっど力F1」・群馬大学8日による趣向を凝らしたプログラム等、月6回カフェを開催しており、目的に合わせて参加する回を選べるのが特徴。認知症カフェには認知症認定講師が従事し、認知症についての相談にも対応しています。



ボランティアの声



月6回の開催のうち、2回は群馬大学の皆さんが担当し、毎月打ち合わせをして、参加者の皆さんが楽しめるようなプログラムを考えています。
体操、オカリナ演奏、歌、俳句、折り紙、茶道、手芸など…。部分開催の回では、皆さん真剣に聴いてくださり、「自分ではおぼろげな言葉を覚えてくなくてしまったので、楽しかった」と声をかけてくださった方もいて、やりがいにつながっています。このような居場所がたくさんあってもいいなと思います。お手伝いできればと思っています。

健康のこと専門家に気軽に相談
本日はありがとうございました

ひまわりカフェのコンセプト

利用してくださる地域のみなさんをお客さんにさせない！
お客さんにならない！

みなさんもお住まいの地域などに居場所を創ってみませんか